

図書館通信 —80—

1987. 7

図書館業務電算化委員会に期待する

中村博保

本学図書館も、本年4月1日から電算機システムによるサービス業務を正式に開始し、大学図書館として新しい時代を迎えることになった。

今回の電算機システムの導入は、計画が立案され、図書館業務電算化委員会が発足した細井寅三館長の時代、学術情報システム参加の方針が決定され、概算要求がまとめられた大月卓郎館長の時代を受けて実現されたわけで、今回の導入までが電算化の第一期であったとすれば、これからは、システムそのものの質的な向上をはかりながら学術情報全国ネットワークに本格的に参入する第二期にうつることになる。

もちろんシステムそのものは、一応かたちがえられてもこれで終りということはない。学術システムに対応するための学内のシステムの構築は本学が当面する重要な課題であって、学内のデータ・ネットワークが整備されるにしたがって、図書館も当然性能のアップが求められることになるだろう。入力されたデータの蓄積は、更に規模の大きい機器を必要とするであろうし、高性能の電算機が開発されれば、より肌理(きめ)のこまかいサービスを提供することも可能になる。図書館もこれからは〈システム〉そのものの原理にしたがって、不断の自己チェックが要求される時代に入ることになる。

日進月歩ならぬ時進日歩の時代ゆえ、しばらく前のことになるが、6月13日の新聞に東大工学部の岡部洋一助教授らのグループが将来の超高速コンピュータへの応用が期待される超電導セラミックスを使ったトンネル型ジョセフソン素子の試作に成功したという記事がのっていた。トンネル型ジョセフソン素子は点接触型素子や弱接触型素子とくらべ、加工が容易で安定した特性をもっていて、今後飛躍的な進展が期待されるということであった。こうした記事を眼にすると、将来テ

キストから直接文字を読みとってデーターとして入力するコンピューターが開発されることも、夢だとばかりはいえなくなりつつあるように思われてくる。そうなれば、現在目録情報と所在情報に限られている学情システムの情報内容も一挙に拡大されることになるであろうし、研究の内容も飛躍的に緻密化されることになるであろう。

この2年間、図書館の責任者をつとめながら感じたことは、図書館の電算化・情報検索ネットワークの構築と時代の動向が構造的なものによって結ばれているということと、そうした構造的なもの現われである〈システム〉も、結局は人間の手によってつくられるということのふたつであった。人間はこれまでも愚かさ賢さを併せもちながら選択を重ねてきた。その結果に対して責任をもつのもまた人間であって、人間以外に責任をとれる存在があるわけではない。現在全国94国立大学のうち38の大学に電算化の予算がつき、また32の大学が学情センターとの接続を完了していて、今後この数は一挙に増加することが予想される。昭和53年11月、文部大臣が学術審議会に対して「今後における学術情報の在り方」について諮問してからほぼ10年、学術情報システムは現在ようやく離陸を開始しようとしている。

本学図書館が導入の第二期に入ったことは冒頭で書いたとおりだが、図書館は現在、学術情報係の新設を含め係の再編成を終え、また従来の図書館業務電算化委員会に図書館委員の半数を加え、新委員会として再発足することにより、電算化のための学内協力体制を整えることができたように思う。導入したシステムを人間の手に合ったシステムに育てあげるのが、新業務電算化委員会の仕事である。その点、大学人としての教官と図書館員の知性をおおいに信頼したいと思っている。

(教育学部・国文学、前館長)

原家旧蔵江戸後期芸文資料管見

—俳諧関係資料を中心に—

復本 一郎

昭和61年度図書資料(大型コレクション)として、本学(静岡大学)に〈江戸明治初期和装本コレクション〉が蔵されることとなった。

このコレクションは、駿東郡大平村の旧家、原家に伝来されていたものである。

目下、附属図書館の春山俊夫氏の御努力によって、着々と整理が進められ、仮目録が作成されるに至った。全451点1281冊におよぶ膨大なコレクションである。私も、あらあら拝見させていただいたが、江戸後期を中心に、あらゆるジャンルに跨がる興味深いコレクションであり、学内外の多方面の研究者による利用価値、すこぶる高いものと思われる(瑕瑾を言えば、不揃本が、かなりの数にのぼるので、無論、それらとても貴重なものではあるが、本目録作成にあたっては、完本か不揃本かを明示することになる。その作業にもかなりの日数を要することになるかと思う。)

*

多彩なコレクションの中から、完本を中心にいくつかを紹介してみることにする。

河村琦鳳の絵本『禍福任筆』(文化5年刊)は珍本。本書をはじめとして、北斎の『絵本魁』(天保7年刊)等、絵画関係の資料が少なくない。大寂庵立綱の『萍の跡』(文化14年刊)等、随筆類が散見するのも、うれしいことである。曲亭馬琴の『松浦佐用媛石魂録』(文化5年刊)をはじめとして、読本類は、かなりの数にのぼるが、残念なことに、ほとんどが不揃本である。式亭三馬の『忠臣蔵偏頼氣論』(文化9年刊)等の滑稽本も散見する。植田孟縉の著、渡辺華山等の画による『日光山志』(天保8年刊)等、地誌類もいくつか見える。その他、歌書、和刻本漢籍類、辞書類に加えて、宮城清行の和算の書『和漢算法大成』(元禄8年成立・後刷本)、高井蘭山の農業書『農家調宝記』(文化6年刊)等が交じっていることも、本コレクションの幅の広さを物語っているように。

*

小稿では、本コレクションの中から、私の興味の対象たる俳諧関係の資料に限って、いくつか検討を加えさせていただくことにしたい。

地元の旧家伝来のコレクションだけあって、駿河関係の俳書の珍本がいくつかあった。

まず、江戸後期駿河を代表する俳人野崎巴明の編になる『俳諧苔の花』(天保4年刊)である。駿

河の風物句〈駿駅十二吟〉によって、我々静岡在住の者にとっては興味をそそられる俳書であるが、それよりもなによりも、芭蕉以下蕉門古人の真蹟模刻十三葉を収めることによって俳諧研究者に注目されている俳書である。私も一本架蔵している。野崎家伝来の一本も披見する機会があった。架蔵本と野崎家本は、表紙等に異同はあるものの内容的には、異なるところがなかった。ところが、本コレクションの一本は、全く別種のものであったのである。一本を手にとって、文字通り瞠目させられた。すなわち、前表紙の裏(見返し部分)には、芭蕉の弟子嵐雪の〈老ひとつこれを荷にして夏衣〉の句が、後表紙の裏には、これも芭蕉の弟子其角の〈わがゆきとおもへばかろしかさの上〉の句が、別紙にそれぞれの筆で模刻され、貼付されていたのである。披見三本の『俳諧苔の花』成立の前後関係は、詳しく検討してみなければ明らかにし得ないが、本コレクションの一本がともかく貴重なものであることは、確かである。

続いて、瓦松庵肆山の『俳諧裾野集』(嘉永4年刊)である。この俳書は、駿河名所図絵の趣を持つものとして知られているが、伝本は、少ない。私も、本コレクションによって、中本二冊の原完本を、はじめて手に取って見ることができた。内容の一部を紹介するならば、例えば、今でも丸子に現存する〔御羽織屋〕については、〔陣羽織を所持す。ゆゑに家名とす。是豊太閤より賜ふ所なり。人こへば拝せしむ。折にふれて切とるもの有よしにて、少し破れに至るも、国恩をおもへるものゝ仕業にこそ。〕の説明とともに、俳人花蹄の〈木の間もる日を戴くや薦もみぢ〉の一句が添えられている、といった具合で、読物としても面白い。ちなみに、〔御羽織屋〕の羽織、今日では、美しく修復されて飾られており、なにかがしかの入場料を払えば、誰にでも見せてくれるので、是非一度、訪ねられることをおすすめする。

『俳諧裾野集』のごとく絵入の俳書を、絵俳書というが、本コレクション中の、浮世絵師英泉の画になる『名所発句集(諸国名所風景発句集)』(天保14年刊)も、伝来の少ない珍本であるので、公開の折は、是非、御覧いただきたい。私には、特に、巻頭の〈俳諧式会定の図〉が、興味深かった。当時、俳諧が、どのような雰囲気の中で、どのように行われていたかが、この図によって明らかに

なるからである。

その他、本コレクションの俳諧関係資料としては、立圃の『はなひ草』を増補した俳諧作法書『当流はなひ大全』（元禄4年、江戸須原茂兵衛版）、同じく、俳諧作法書で、雪中庵蓼太の『俳諧付合小鏡』（安永4年刊）等、興味ある俳書は少なくないが、私がおもっても注目している俳書は次の一点である。

すなわち、『享保壬子歳旦』がそれである。この一本、『国書総目録』には、記載されていない。恐らく他に伝本のない稀覯本と思われる。享保壬子（享保17年）という年代も、注目してよいであろう。前年には、蕉門（芭蕉門）随一の論客支考が没し、この年には、芭蕉のパトロンの存在であった杉風が没している。そのような、俳壇の交代期である。

『享保壬子歳旦』は、いわゆる歳旦帳。今日の賀状のごときもので、旧年中に用意した正月用の句を集めて新年に、毎年刊行配布したものである。構本仕立てであるのも、歳旦帳の特色である。

その『享保壬子歳旦』を繙くと、巻頭に、沾州の〈眉根よし山二面かゝみ餅〉の句を発句とする沾州、宗瑞の三ツ物（発句・脇・第三——歳旦句としては、三ツ物が通例である）が見える。沾州

は、享保江戸俳壇の中心人物沾徳の弟子で、比喩体なる俳風で一世を風靡した俳人。沾瓜は、詳かにし得ないが、同じく沾徳門であろう。ところが、宗瑞となると、前年の享保16年、『五色墨』なる俳書を出して、沾州を中心とする江戸座俳諧を批判しているのである。一人宗瑞のみならず、その『五色墨』のメンバーである蓮之、咫尺も加わって、沾洲一派と三ツ物を試みている。これは、どういうことであろうか。軽々に即断を許さない注目すべき事象であり、今後の検討課題の一つとしたい。

かく、私の研究対象である俳諧関係に限って卒読しただけでも、多くの新事実を教えてくれる本コレクションであるので、やがて整理が済み、公開されたならば、多くの人々が、それぞれの立場で、大いに利用され、多くの成果をあげられるのではないかと思われる。今は、私の興味の対象である俳諧に焦点を絞って、蕪雑な文章を綴り、紹介にかえさせていただくことにした。

*

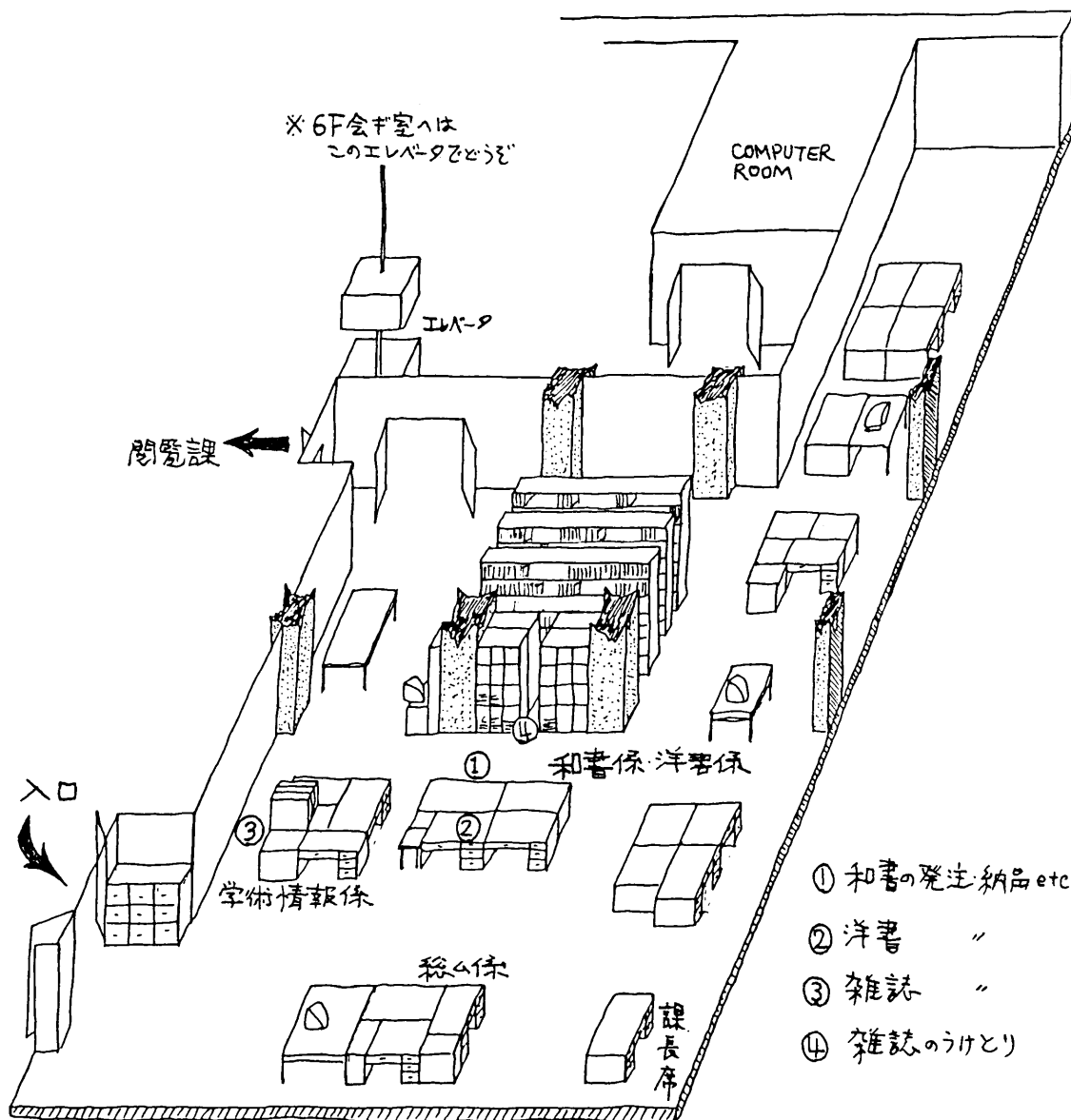
なお、青山延光の『赤穂四十七士伝』（嘉永4年刊）をはじめとして、義士関係の資料が比較的充実していることも付記しておく。

（人文学部・国文学）

お知らせ

- ◆ 7月21日(火)～8月31日(月)の間、開館時間は8:30～17:00となります。
(土曜日は12:00まで)
- ◆ 9月17日(木)までの間の貸出については、貸出期限を9月24日(木)まで延期します。
- ◆ 新しい貸出票を発行しています。貸出カウンターで、学生証を提示のうえ受けとって下さい。

整理課 ^{NEW} 配置図



学術情報係について

学術情報係——what?

整理課の新しい「係」です。電算化にともなうもので、コンピュータ・システムに関して、総括的な業務を担当しますが、それと共に、雑誌全般についての仕事をします。雑誌の購読申込みの受付、購入・受け入れ、書棚への配架、さらに、製本などなどです。また、寄贈雑誌の受け入れもしています。

苦情引受係!?

コンピュータ化については、十分な検討のもとに作業を進めているつもりですが、なにぶん、これまで未経験の領域に入っていくわけですので、思わぬミスが生じるかもしれません。それを、極力なくそう、という次第。そのためには、図書館職員全員の、チームワークのとれた適切な努力が必要ですが、それは、何よりも、利用の現場と密着したところのものでなくてはならない、と考えています。利用者のアドバイスを必要としているのです。

本通信、あるいは、各種の告知によって、図書館のコンピュータ・システムに関しての最近の動向をお知らせしていくつもりですので、御意見——苦情で構いませんので、本係にお寄せ下さい。

雑誌業務のコンピュータ化

「業務電算化実施計画」に従いますと、本年10月から雑誌業務をコンピュータ化することになります。10月、という時期は、中途半端に思われるでしょうが、スタート時点としては、外国雑誌の新規申込みの時期である10月が、最良と考えられます。

それまでに、

- ① 継続購読中のものの書誌データの入力
- ② (できれば) ①の分の、現在までの所蔵データの入力
- ③ (さらには) 寄贈雑誌の、書誌および所蔵データの入力

という作業が不可欠ですし、もちろん、それらを有効に使用するためのシステムの検討も行わなければなりません。検索の方法は? 日々到着する雑誌のシステムへの入力のしかたは? 帳票類は適切か? などなど、です。

目 録

図書館のコンピュータ化に関しての、最大の焦

点は、図書館側としては《目録をどうするか》、利用者側としては《目録はどうなるか》、という点でしょう。作業量と効果、作業内容の適正化などを担当係と調整し、そして学術情報センターの動向などを見つつ、電算化委員会と共に、充分の検討をおこない具体化させたいと思っています。

と、同時に……

わが係としては、雑誌に関して、コンピュータ化までは、従前と同一の作業を行わなければなりません。その間、いろいろな仕事が増えることが予想されるため、利用者の希望にそいかねることもあるとは思いますが、よろしく願う次第です。

☆図書館委員会報告

(第1回図書館委員会 S 62・4・20・月)

議 事

1. 整理課に学術情報係を新設することに伴う静岡大学事務組織規程の一部を改正する規程案を承認した。
2. 図書館業務の電算化及び整理課に学術情報係を新設することに伴う、静岡大学附属図書館事務分掌規程の一部を改正する規程案を承認した。
3. 昭和63年度概算要求事項として、学術情報システム担当要員の定員増を要求することを承認した。

(第2回図書館委員会 S 62・5・29・金)

議 事

1. 図書館維持費検討委員会の取扱いについて審議し、同委員会は本年度限りで廃止することとした。
2. 図書館業務電算化委員会の拡充について審議の結果、同委員会の構成委員として各部局図書館委員会委員1名を追加することを承認し、同委員会要項の一部改正を行った。

(第3回図書館委員会 S 62・6・8・月)

議 事

1. 昭和62年度図書館運営費の予算案について審議の結果、委員会として原案を了承し、各部局教授会等で検討願うこととした。
2. 昭和62年度学生用図書購入費の配分案について審議し、原案のとおり承認した。
3. 昭和62年度指定図書購入費の部局負担額案について審議の結果、委員会として原案を了承し、各部局教授会等で検討願うこととした。

☆昭和 62 年度図書館委員会委員名簿

館長	森口治生	
分館長	大山襄	
人文学部	武居良明	松田禎二
教育学部	峯村昭三	増田好治
理学部	太田吉彦	中山潔
工学部	福田明	
農学部	山岸祥恭	後藤正夫
教養部	田村貞雄	宗片邦義
電子工学研究所	伊ヶ崎泰宏	田中昭
電子科学研究科	松田孝	石川賢司
法経短期大学部	吉岡幹夫	
本部	杉山俊隆	
附属図書館	斎藤現太郎	

北川陽子

(教養部庶務係→整理課総務係)

神谷守彦

(工学部情報工学科→浜松分館係)

○昇任 (62.4.1 付)

塚本雅美

(整理課受入係→整理課学術情報係長)

○採用 (62.4.16 付)

溜渕文子 (閲覧課運用係)

○辞職 (62.3.31 付)

加藤欽也 (閲覧課運用係)

○配置換 (62.6.1 付)

島村敏子

(整理課受入係長→整理課和書係長)

佐藤和慧

(整理課整理係→整理課和書係)

松永幸夫

(整理課受入係→整理課和書係)

横山芳美

(整理課整理係→整理課和書係)

長南千恵子

(整理課整理係長→整理課洋書係長)

畠山百合子

(整理課整理係→整理課洋書係)

村井恵子

(整理課受入係→整理課洋書係)

久部恵子

(整理課整理係→整理課洋書係)

川崎雅史

(閲覧課運用係→整理課学術情報係)

山川玲子

(整理課受入係→整理課学術情報係)

☆図書館業務電算化委員会委員名簿

館長	森口治生	
分館長	大山襄	
人文学部	浅利一郎	武居良明
教育学部	堀江雅幸	峯村昭三
理学部	小沼茂樹	中山潔
農学部	山岸祥恭	後藤正夫
教養部	馬場良和	田村貞雄
法経短期大学部	土屋慶之助	吉岡幹夫
工学部	阿部圭一	福田明
電子工学研究所	宮尾正大	伊ヶ崎泰宏
電子科学研究科	石川賢司	
附属図書館	事務部長	整理課長
	閲覧課長	学術情報係長

☆人事異動

○新任 (62.7.1 付)

森口治生 館長 (理学部教授)

大山襄 分館長 (工学部教授)

○退任 (62.6.30 付)

中村博保 館長 (教育学部教授)

藤田郁夫 分館長 (工学部教授)

○配置換 (62.4.1 付)

松村忠文

(整理課長→山梨医科大学教務部図書課長)

杉尾勝茂

(弘前大学附属図書館閲覧課長→整理課長)

伊藤正範

(浜松分館総務主任→工学部学生係学生主任)

窪田久子

(整理課総務係→教養部庶務係)

☆昭和 62 年度「図書館通信」編集委員

館長	森口治生
農学部	後藤正夫
法経短期大学部	吉岡幹夫
図書館	松永幸夫
〃	真中進
〃	久部恵子
〃	望月信夫